



第1時間目 障害とは何か

「障害」ときくと、何を思い浮かべますか？

- 知的障害
 - 視覚障害
 - 聴覚障害
 - 身体障害（肢体不自由）
 - 精神障害
 - 発達障害
- ・・・など

何が「障害」？

- 視覚障害者

- 日々の生活を送る上で、どのような困りごとがある？

何が「障害」？

- 視覚障害者の移動の困難さ
- → 同行援護
- 必要な支援が受けられている時には、(その事柄に関しては) 困りごととは解消する
- = 困りごとになるかは環境次第

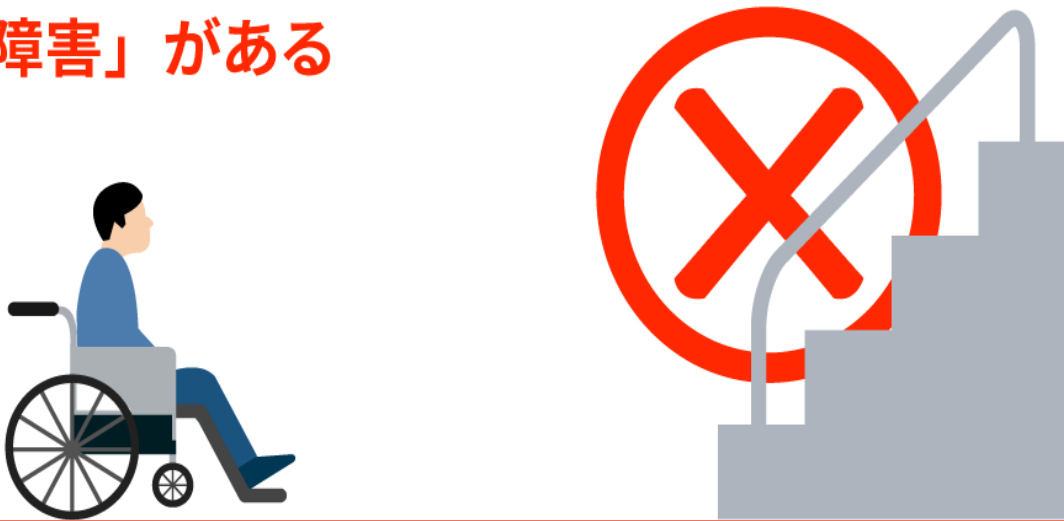


障害の社会モデル (⇔医学モデル)

- 「障害」とは、生きていく上での困りごと（バリア, 障壁）
- その困りごとは、「環境（社会）」によって生まれる

● 階段しかないので、2 階には上がれない

▶ 「障害」がある



● エレベーターがあれば、2 階に上がれる

▶ 「障害」がなくなった!

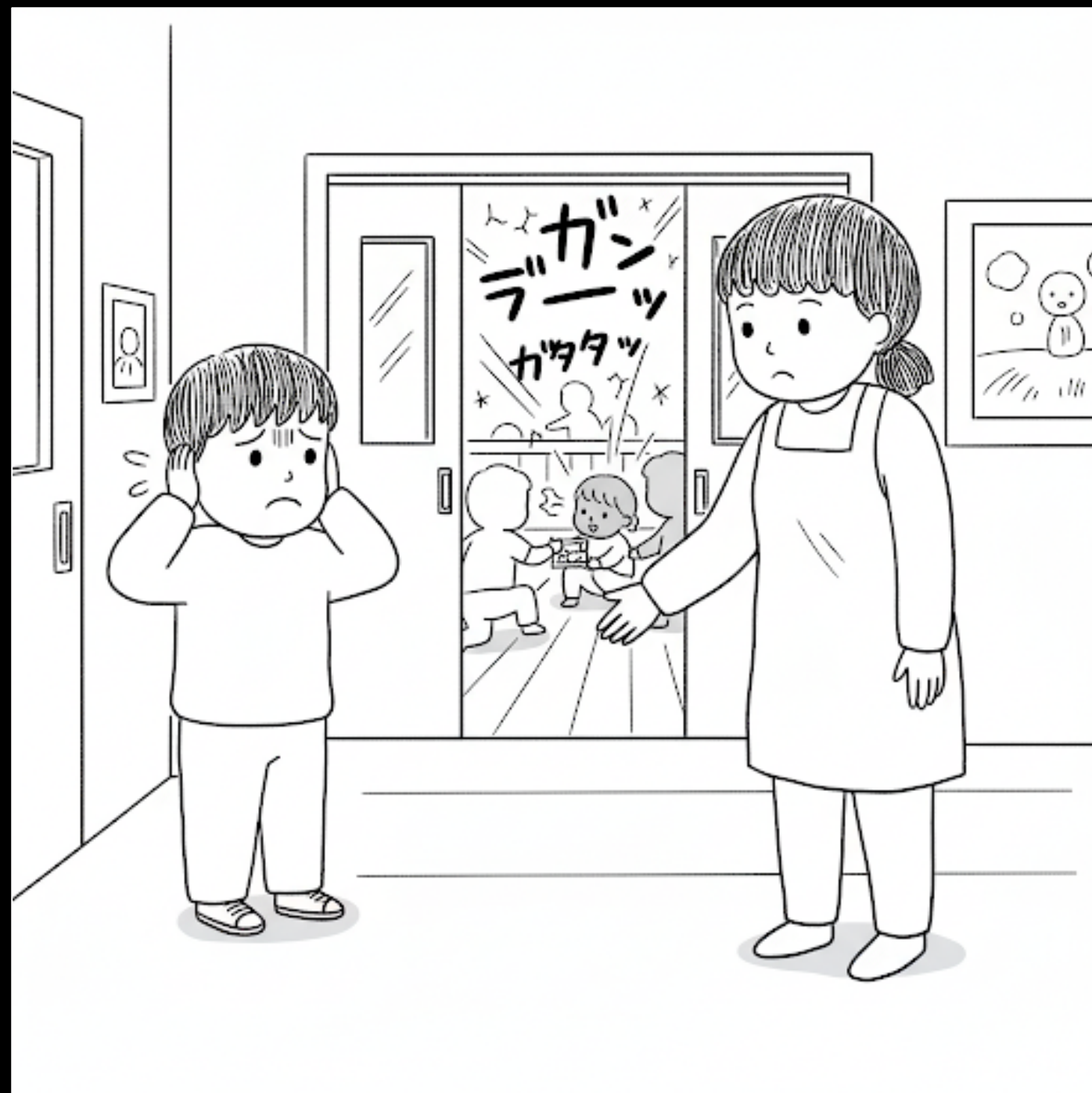


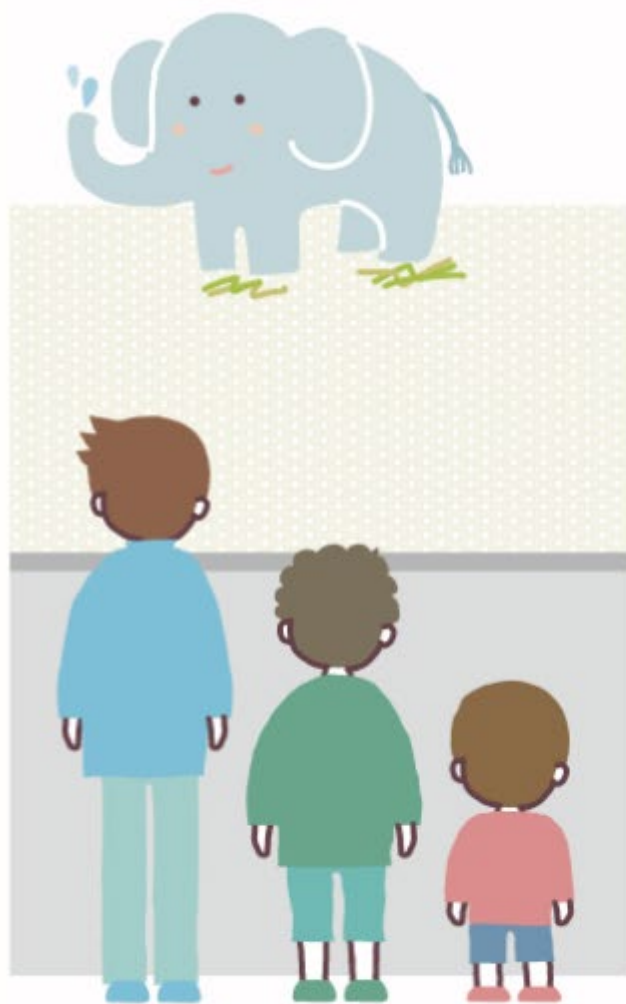
社会的障壁（バリア）の例

①社会における事物	通行・移動しにくい施設, 設備
②制度	利用しにくい制度
③行事, しきたり, ルール (慣行)	障害のある方の存在を意識していない 慣習, 文化
④人々の考え(観念)	障害のある方への偏見や無理解, 誤解

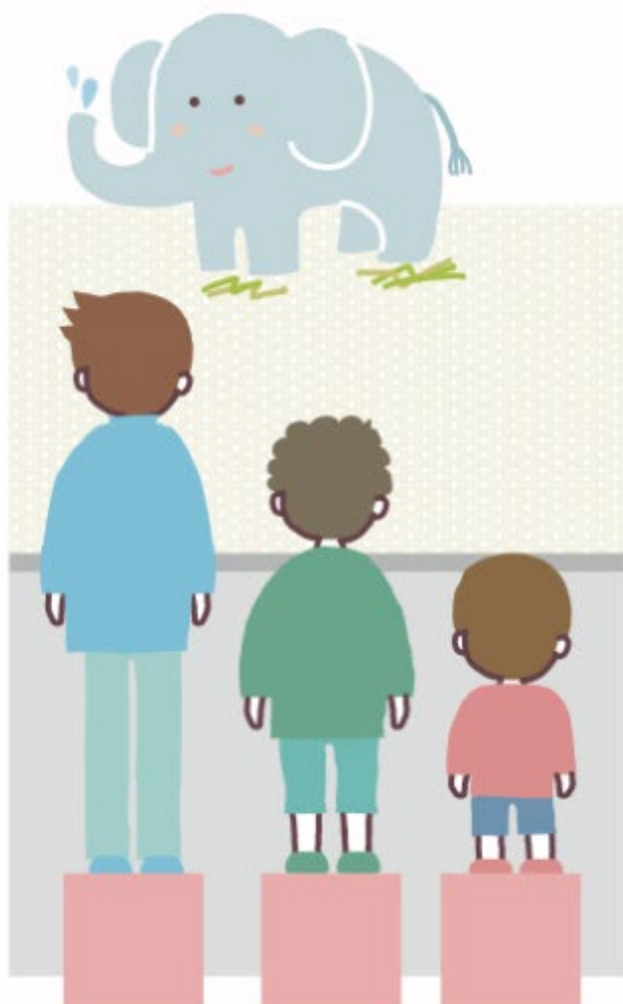
この子どもは何に困っている？

- A君は、電車のおもちゃで遊ぶことが大好きです。でも、自由時間になると、たくさんの子どもたちが大きな声で話し始めたり、おもちゃの音が響いたりして、A君の耳にはとてもうるさく感じられるようです。しばらく電車で遊ぶと、保育室を出て職員室に行ってしまいます。

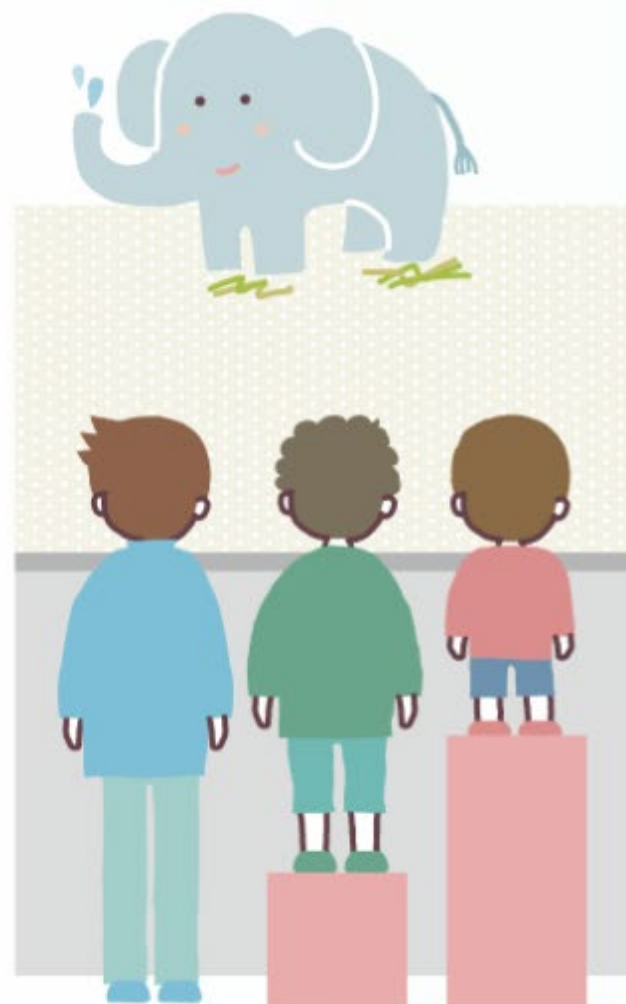




配慮がない状態



平等



公正

障害者差別解消法

- 障害を理由とする差別解消を進めることを目的として制定
- 不当な差別的取扱いを禁止
- 過度な負担でない範囲で、合理的配慮の提供
 - 令和6年(2024年)から義務化

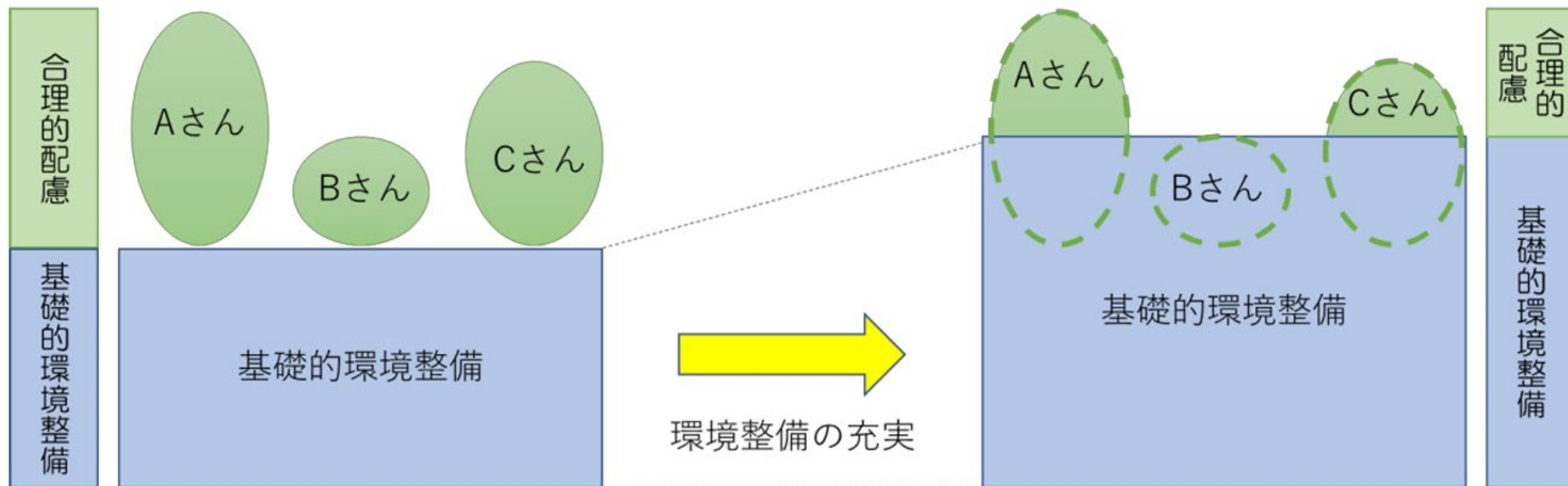
合理的配慮とは

- 障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために**何らかの対応を必要としている**との**意思が伝えられた**時に、負担が重すぎない程度で**対応**すること。
- 重すぎる負担の時でも、理由を説明したり、別のやり方を提案することも含め、話し合いによって理解を得るように努める

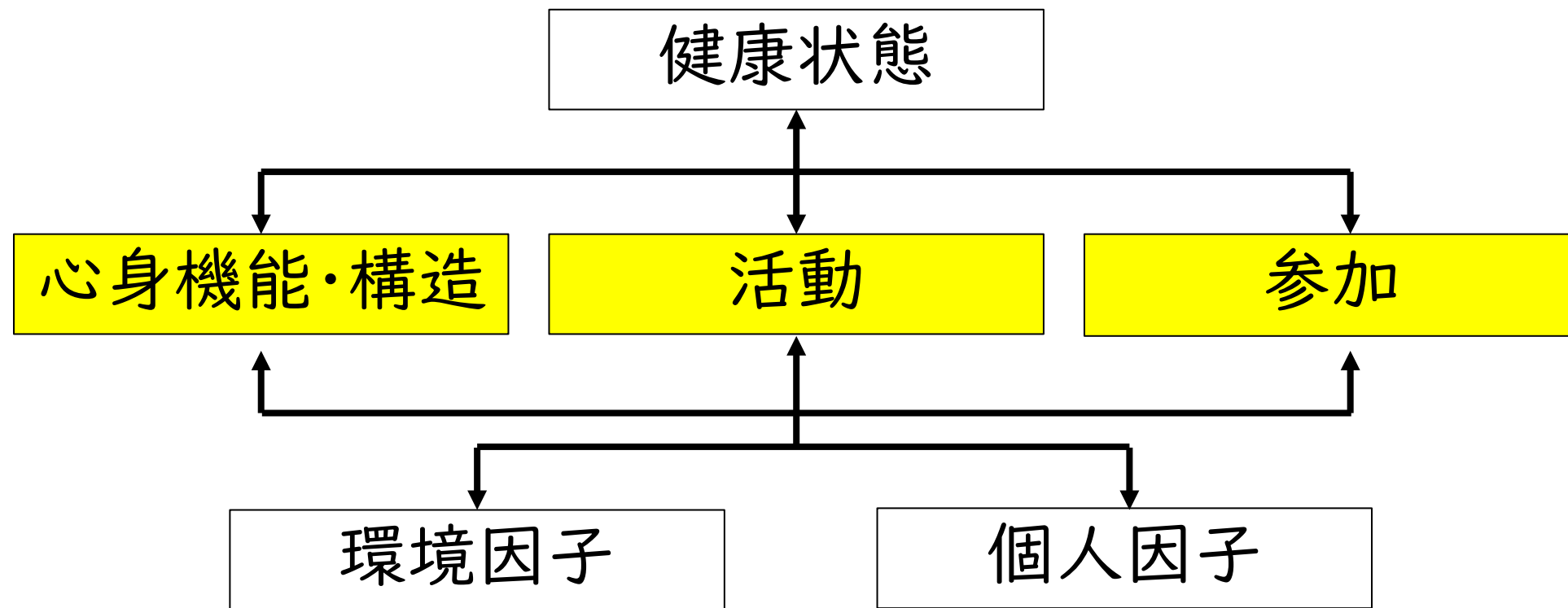


基礎的環境整備

- その場にいるすべての人にとって良い環境を整備すること



国際生活機能分類 (ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health)



- 子どもが生活する場（幼稚園や保育所）は、活動や参加を支援できる



第1時間目 終了です
お疲れさまでした



第2時間目

発達障害 (自閉スペクトラム症)

発達障害とは

- 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの（2004年発達障害者支援法）

発達障害とは

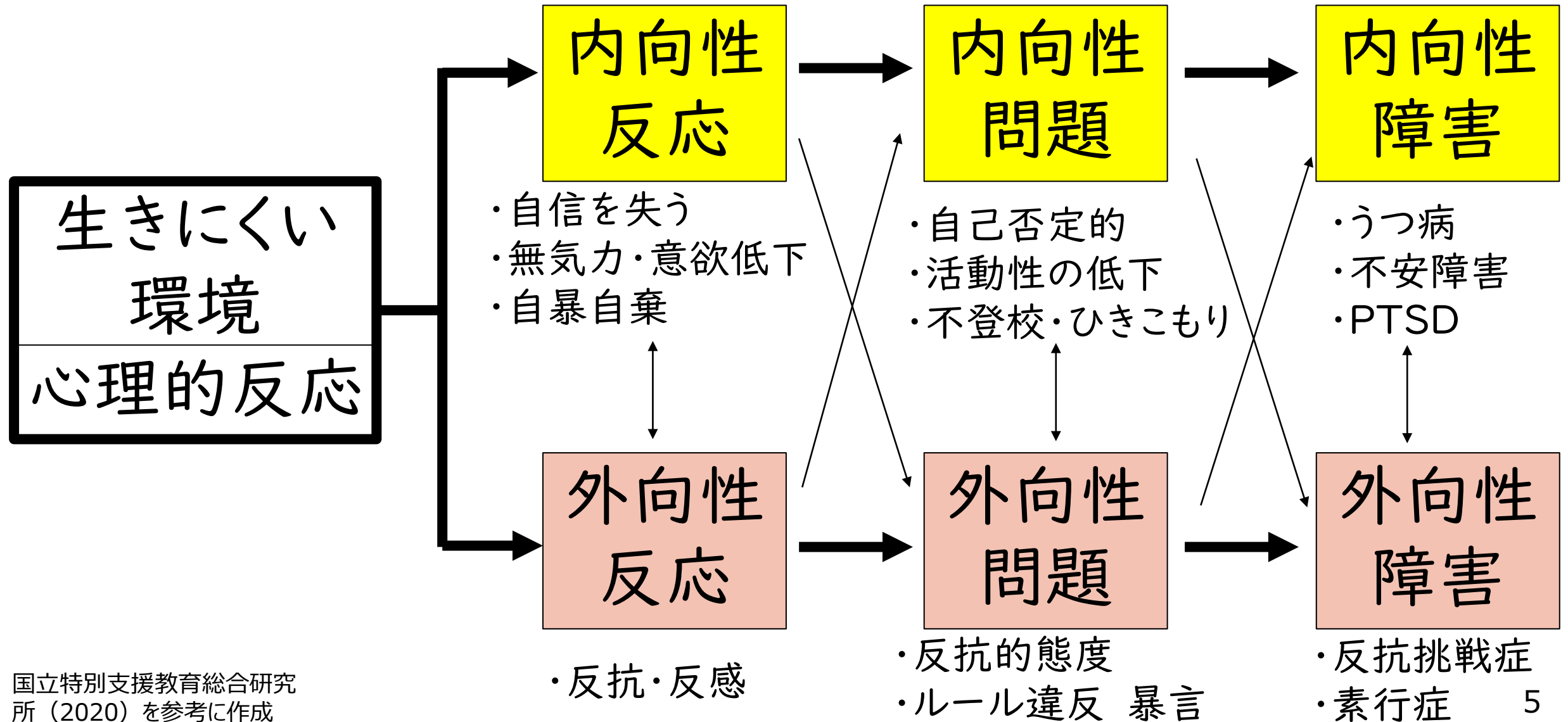
- 発達障害はスペクトラム
 - 発達障害のある人となない人を分ける明確な境界線はない
 - 併存・重複することもある

周囲からの理解が得られないと…(1)

- 二次障害

- 発達障害があることで、家庭や学校などの子どもを取り巻く周囲から不適切な対応を受けることに起因する心理的な反応
- 内向性問題（障害）と外向性問題（障害）
- 早期からの理解と支援が重要

周囲からの理解が得られないと…(2)



自閉スペクトラム症 (ASD)

- ① 社会的コミュニケーションや対人的関わりの困難さ
- ② こだわりや反復運動
 - 臨機応変な対人関係が苦手であること
 - 自分の関心, やり方, ペースの維持を最優先させたいという本能的志向が強いこと

臨機応変な対人関係が苦手

- 対人交流
 - 喜び, 悲しみ, 興味などの感情を分かち合うのが苦手
 - 双方向の対人交流が続きにくい(一人を好む, 受け身な態度など)
- 言語的コミュニケーション
 - 独り言, エコラリア(反響言語, オウム返し), 会話がかみ合わない など
- 非言語コミュニケーション
 - 視線を使ったコミュニケーションが難しい, 言外の意味が通じにくい など

自分の関心, やり方, ペースの維持への本能的志向

- 関心
 - 特定の物に強い興味を持つが, それ以外にはほとんど興味がない
- やり方
 - 特定の手順を繰り返すことにこだわる
 - 同じ行動を繰り返す（常同運動）
- ペースの維持
 - 他者にペースを乱されたくない

事例Ⅰ 3歳児クラスのAくん

- 3歳のAくんは、最近、言葉の数が増えてきたものの、以前はなかった困りごとが見られるようになりました。
- 例えば、いつもの公園からの帰り道、少しだけ違う道を通ろうとすると、Aくんは急に足を止め、その場で泣き叫びながら道にひっくり返ってしまいます。
- また、お気に入りのキャラクター「ミャクミャク」を、お母さんが地面に描いてあげると、嬉しそうに見ています。しかし、少しでも形が違うと、「ちがう!」と怒って泣き出し、描いた絵を足でこすって消そうとします。

- こだわりの対象
 - 体の動かし方や物の配置
 - スケジュールや段取り, 行動パターン
 - 幾何学な図形やデジタルな情報, マニアックな知識 など
- 本人がこだわっていることが思い通りにいかないときに強い不安を感じ, パニックになりやすい
- こだわりの対象は発達とともに移り変わる

感覚の特徴

- 視覚的な情報に注意がひかれやすい
 - 聴覚的な情報がおろそかになってしまうことがある
- 感覚の過敏さ, 鈍麻さ
 - 特定の音が苦手
 - 特定の触覚を嫌がる
 - 痛みを感じていないかのようにふるまう

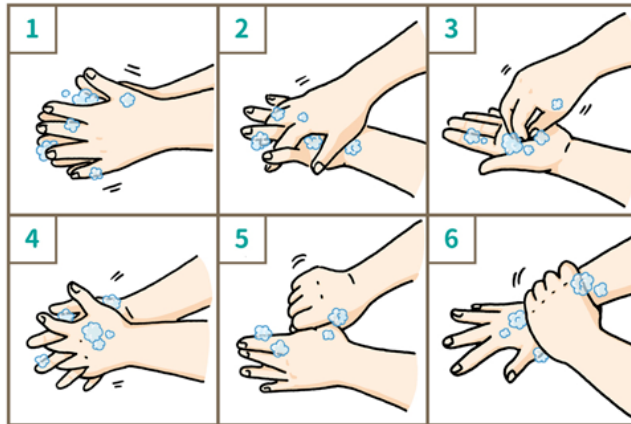
記憶の特徴

- 興味のあることは細かく覚える
- 未来のことをイメージすることが難しい
- 一度記憶するとなかなか忘れられない
 - 嫌な記憶が時間とともに消えていかないため、大きくなると頻繁にフラッシュバックを経験する人もいる

環境面からの支援・配慮

- 視覚的構造化

- 見てわかる手がかりを示すこと
- 命令をするための物ではなく, 大人の提案を分かりやすく伝えて合意をはかるもの



乳幼児期のコミュニケーションの支援

- 社会的コミュニケーションの段階(尾崎, 2018)
 - ①芽ばえ段階
 - ②リクエスト段階
 - ③早期コミュニケーション段階
 - ④コミュニケーション段階

①芽ばえ段階

- 主な特徴
 - 人と関わりを持とうとせず, 自分で何でもしようとする
 - 玩具本来の遊び方で遊ばない
 - ほとんど言葉を理解しない
- 支援の目標
 - 身体遊びで楽しいやり取りに誘う
 - 子どものアイコンタクトや微笑, 発声などをくみ取って, しっかりと応答する
 - 要求のコミュニケーション場面をつくる



②リクエスト段階

- 主な特徴

- 大人と少しだけ関わり, 時々視線が合う
- 大人を押したり, 手を引っ張ることによって要求する
- いつも行う活動では, 次に何をすればよいか分かる



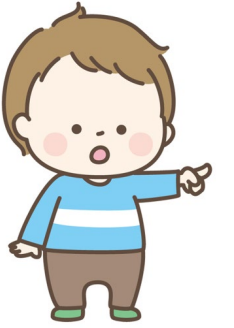
- 支援の目標

- 身体遊びのバリエーションを増やして, やり取りが続くようにする
- 要求するものが増えるようにするとともに, 要求手段を増やす

③早期コミュニケーション段階

- 主な特徴

- 指さしや物の手渡し, 提示ができる
- よく聞く言葉を理解しており, 「バイバイ」など簡単な挨拶ができる



- 支援の目標

- 子どもからやり取りを始めるようにきっかけをつくる
- 身振り, 指さし, 絵, 言葉などで要求できるように支援する
- 要求以外のコミュニケーションを促す 例. 拒否や抗議, 挨拶

④コミュニケーション段階

- 主な特徴

- よく知っている遊びであれば, 他の子どもと遊ぶ
- 短い会話ができる

- 支援の目標

- 本人に分かる言葉で伝え, やり取りができるようにする
- 様々な目的や場面での, 色々な人とのコミュニケーションを促す
- 友だちと一緒に遊び, 会話を続けられるようにする



ASD児の支援（育児）で重要なこと（本田, 2017）

- 現段階で、ちょっと頑張ればできることを目標にする
- 得意なことを十分に保障する
- 不得意なことに苦手意識を持たせないこと
- 大人に相談してうまくいったという経験を持ってもらうこと

第2時間目 終了
お疲れさまでした

第3時間目

その他の発達障害 (注意欠如・多動症 など)

・5歳のBさんは、つい先生の話をお遮りしてしまったり、気になるものを見つけると活動の途中でも席を立ってしまったります。先生はBさんの将来を心配し、その都度厳しく注意しました。しかし、叱られ続けることでBさんは自信をなくし、先生に乱暴な言葉で言い返したり、物に当たったりするようになりました。最近では「保育所に行きたくない」と登園も嫌がっています。

注意欠如・多動症 (ADHD)

- ① 不注意
- ② 多動性
- ③ 衝動性

- ・すぐに注意がそれる
- ・順番や指示が待てない
- ・落ち着きがない・しゃべりすぎる
- ・持ち物をなくす，忘れる

ADHD支援のコツ① 妨害となる刺激を減らす

・場の構造化（藤原，2015）

- ✓ 保育の環境と場所をできるだけ一致する
- ✓ 自分の場所や持ち物が分かる
- ✓ 遊びのコーナーが適切に分けられている
- ✓ 片づける場所が一定で，見てわかる
- ✓ 教材は常に定位置に片づけられている



この保育室を構造化するアイデアをたくさん挙げてください

ADHD支援のコツ②

- すぐ、具体的に、みんなの前で褒める
- 指示を聞きのがしやすいため、個別の言葉かけやリマインドをする
- ルールは分かりやすく
 - 視覚的構造化を用いながら
- 楽しい見通しで意欲を支える

- トークンエコノミー

- 望ましい行動を褒めるポイント制度

- 最終的には子どもが意味を見出して続けられる目標にする

- 本人と目標について合意を取る



・5歳のBさんは、つい先生の話遮ってしまったり、気になるものを見つけると活動の途中でも席を立ててしまったりします。
先生はBさんの将来を心配し、その都度厳しく注意しました。しかし、叱られ続けることでBさんは自信をなくし、先生に乱暴な言葉で言い返したり、物に当たったりするようになりました。最近では「保育所に行きたくない」と登園も嫌がっています。

限局性学習障害 (LD)

・聞く・話す・読む・書く・計算や推論をするなどの特定の能力に困難さ

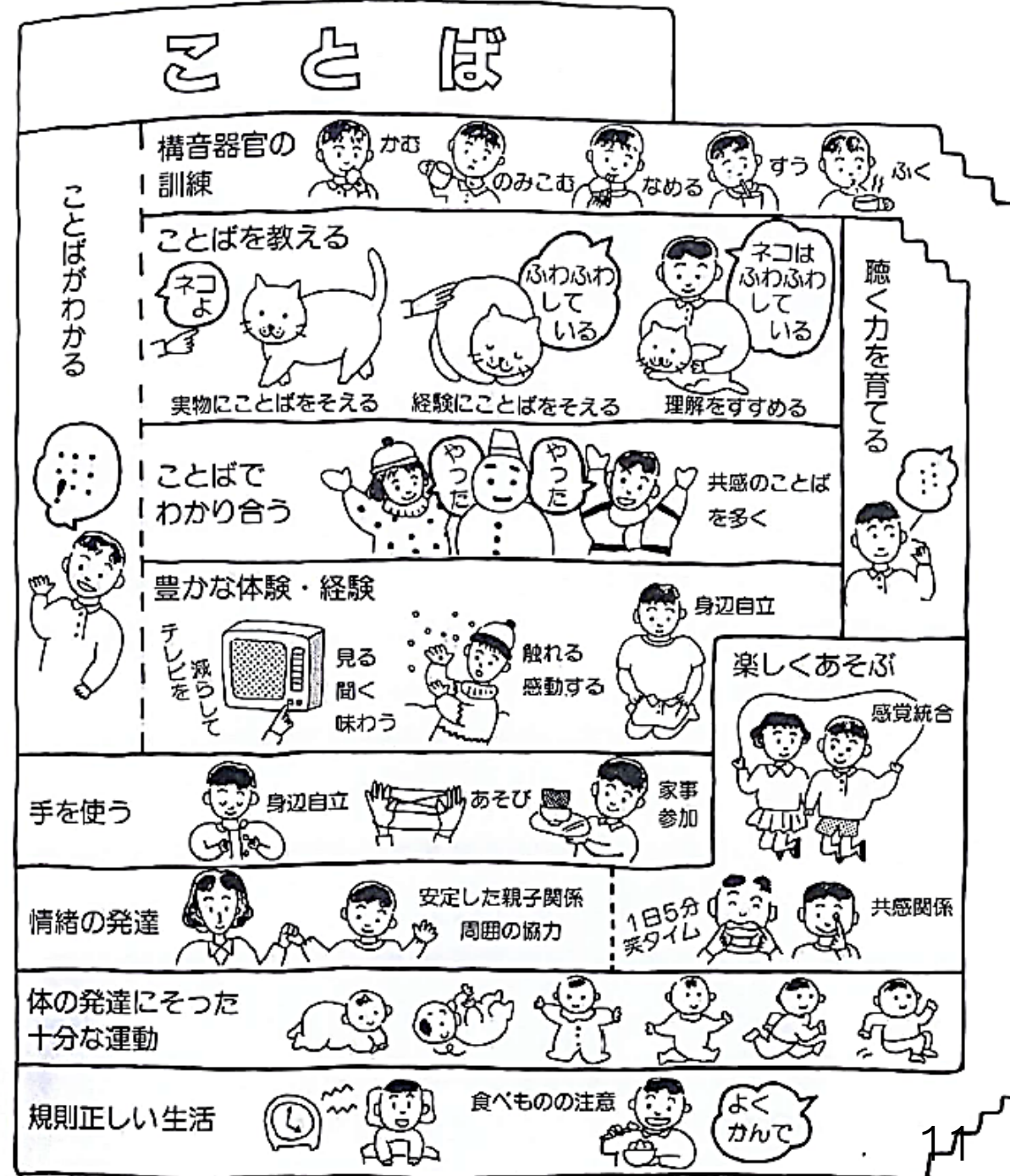
- ・発音の未熟さ (例. ぶどう→ぶろー)
- ・音韻の未熟さ (例. とうもろこし→とうもころし)
- ・ひらがなや漢字の習得の遅さ
- ・語彙の少なさ
- ・数のイメージの持ちづらさ

幼児期によくみられる特徴

- 一斉指示を理解できていない
 - 困って固まっていたり，周りの子どもを見て動いたりする
- ことばを使う活動にあまり参加できない
 - 絵本の読み聞かせや言葉遊びなど
- 語彙が少なく，言いたいことが言えない
 - うまく伝えられず，我慢の限界を迎えるとかんしゃくを起こすことも
- ひらがなの読み書きにあまり興味を示さない

言語発達の土台

- ことば（だけでなく，運動なども）は，様々な能力や経験の土台があって発達する。
- 少しずつ土台を作る



中川信子（1986）『ことばをはぐくむ 発達に遅れのある子どもたちのために』． ぶどう社．

小学校への引継ぎ支援

秋田喜代美・馬場耕一郎(2018)『保育士等キャリアアップ研修テキスト3障害児保育』中央法規出版.

・保育所と小学校への接続 (秋田・馬場, 2018)

- ① 保育・教育内容の接続
- ② 保育士等・教師や子ども同士の人的交流
- ③ 資料による引継ぎ
 - ✓ 保育所児童保育要録
 - ✓ 就学支援シート
 - ・ 集団生活での様子や, 保育所で行ってきた支援工夫を具体的に記述する
 - ・ 小学校での生活を想定して, 留意すべき点を示す

発達性協調運動障害（DCD）

- ・協調運動（両手，目と手，手と足などを同時に使う運動）の困難さ

- ・ハサミやえんぴつの操作がぎこちない
- ・折り紙などの制作ができない
- ・字の形が崩れる，書くのが遅い
- ・姿勢が悪い
- ・走り方がぎこちない，まっすぐ歩けない
- ・ボールをうまく蹴れない

5歳9ヶ月の男の子(年長クラス)。保育園の朝のお集まりや昼食の時の姿勢が悪く、いつも「ちゃんと」座るように注意されています。本人はあまりふざけている様子はありません。座り始めて1分ぐらい立つと、身体がぐにゃぐにゃになりだします。頬杖をついたり、椅子の背もたれと机の間で、腕をつっかえ棒のように使って身体を支えたりすることもあります。疲れてくると立ち歩いたり、床に寝転んでしまうこともあります。

DCDの支援のポイント

1. 生活上の困りを把握する
 - ・ いつ，どこで，どのように
2. 環境との相互作用の視点で支援する
 - ・ 例. 「箸を使って食事をするのが苦手」という運動の不器用さ→急いで食べさせていないか？使いにくい箸でないか？
3. 成功経験を積めるように
4. 練習や課題の工夫
5. 環境の工夫

第3時間目 終了
お疲れさまでした

第4回目 援助・支援の考え方

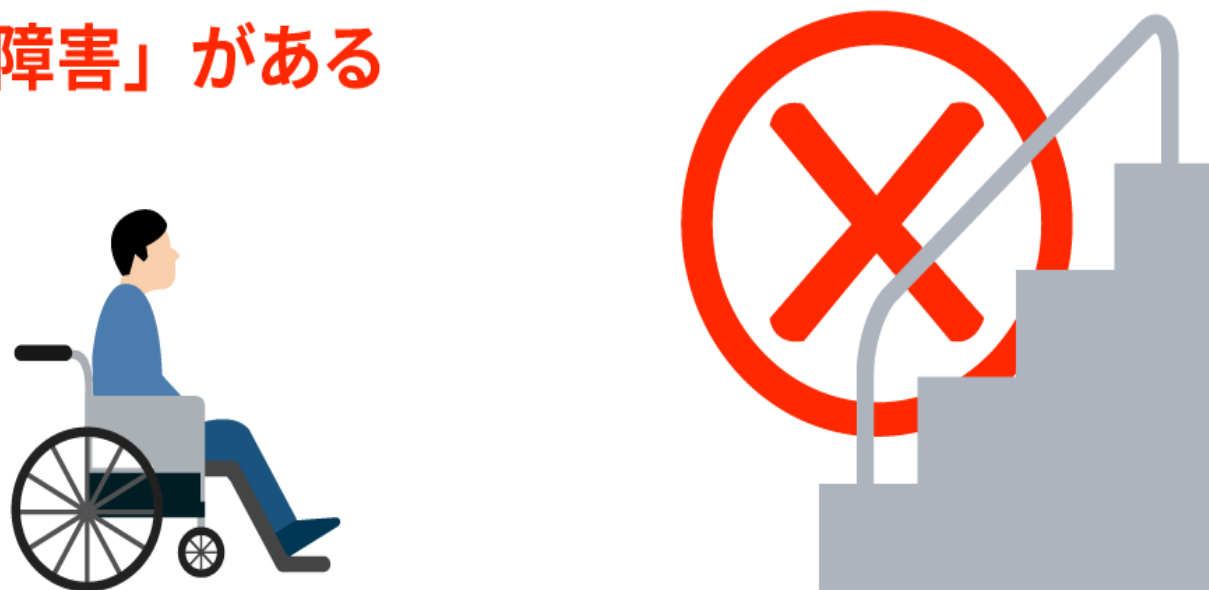
- 3歳児クラスのCくんは、絵本の読み聞かせや歌の時間に全く参加せず、お気に入りのおもちゃで遊んでいます。「みんなと一緒にやろう」と先生が声をかけても、聞こえないかのよう。時には、急に部屋を飛び出して、外の遊具へ遊びに行ってしまう。先生は、Cくんのわがままなふるまいをどこまで許してよいか悩んでいます。

障害の社会モデル (⇔医学モデル)

- 「障害」とは、生きていく上での困りごと（バリア, 障壁）
- その困りごとは, 「環境（社会）」によって生まれる

● 階段しかないので、2 階には上がれない

▶ 「障害」がある



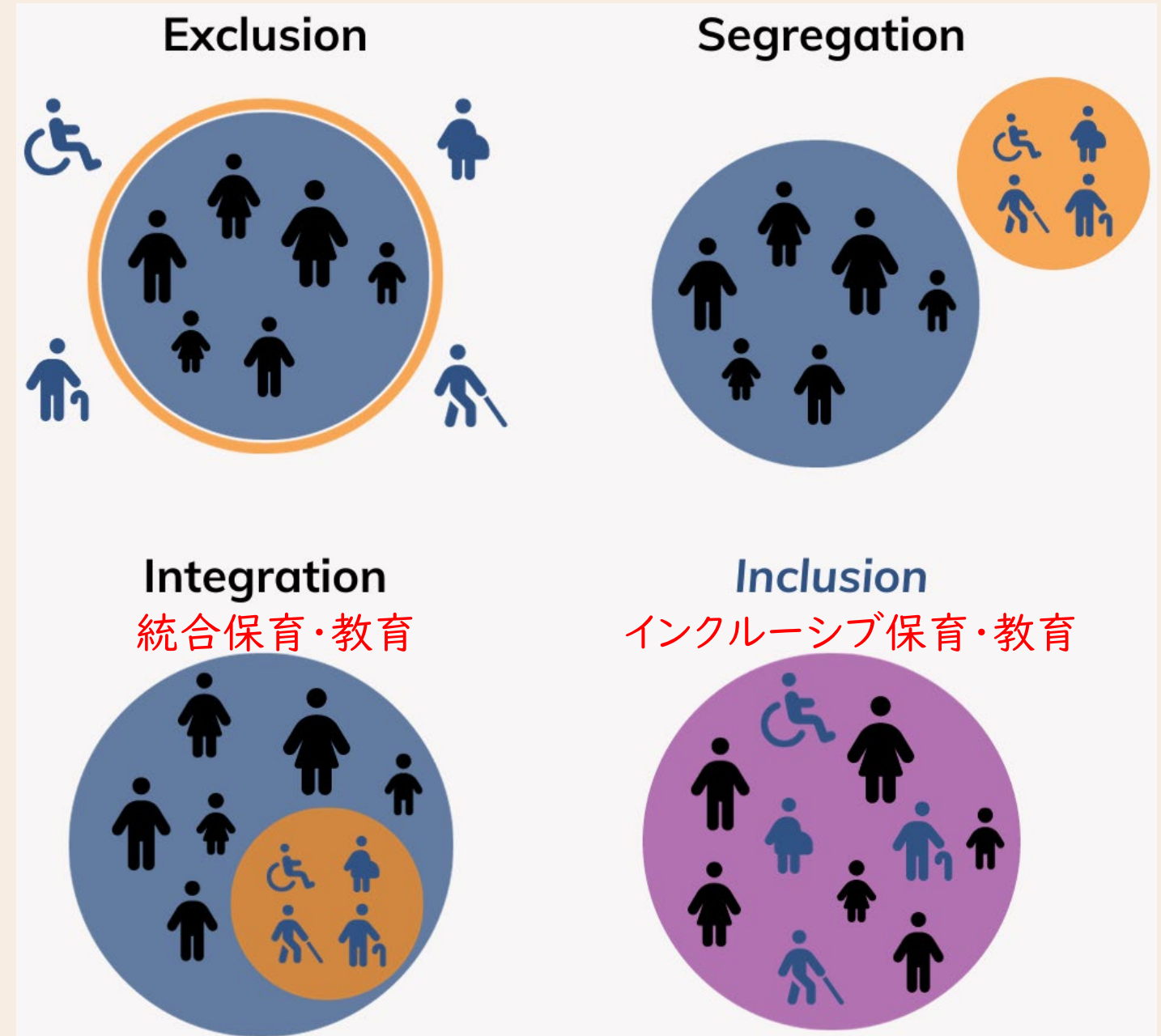
● エレベーターがあれば、2 階に上がれる

▶ 「障害」がなくなった!



インクルーシブ教育・保育

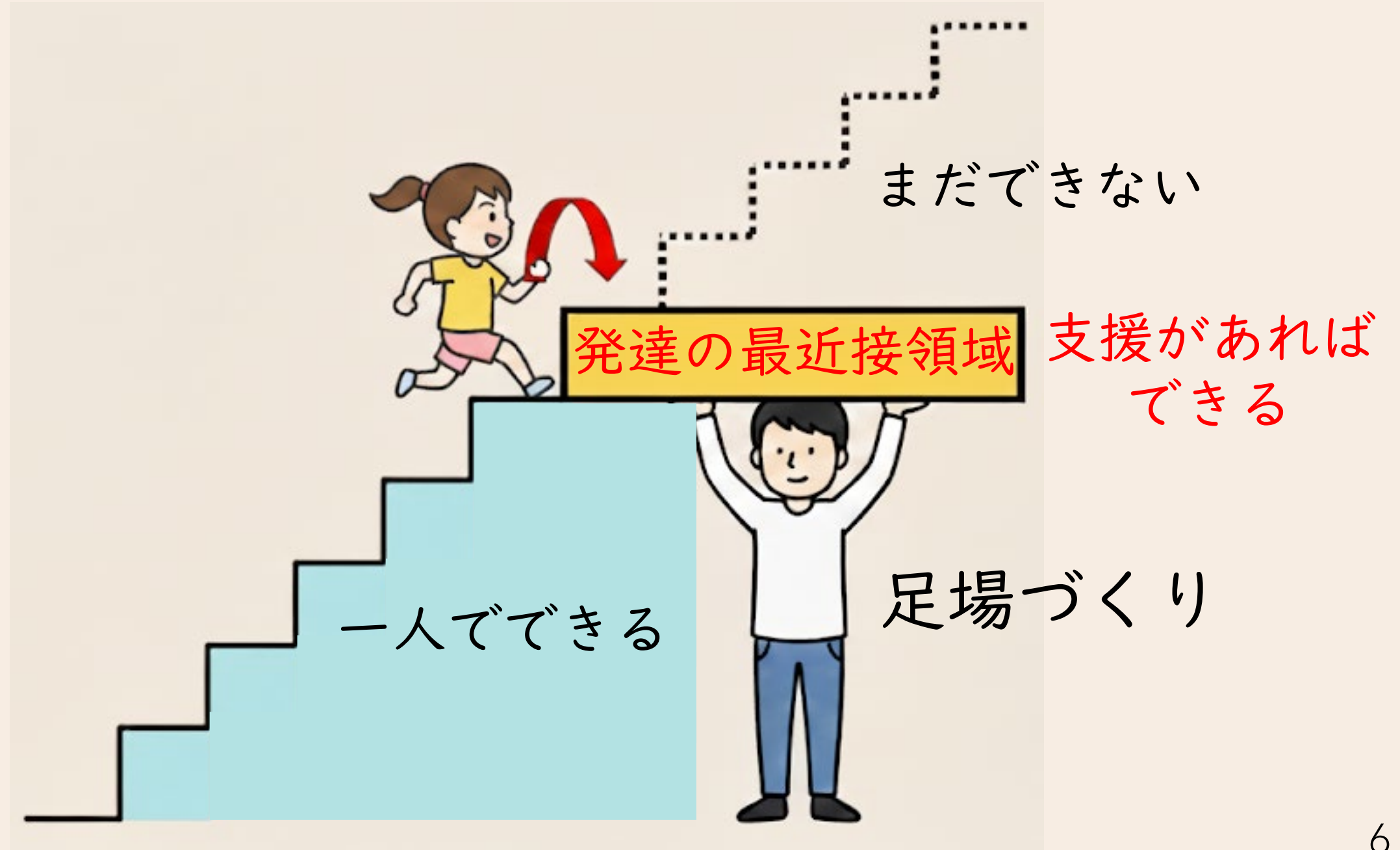
- 共生社会の実現
- すべての子どもの教育を受ける権利の保障
- 自らの生活する地域における教育機会の保障
 - 合理的配慮の提供



支援の基本

- 環境整備
 - 物の配置，分かりやすさ
- 指示や説明の仕方
 - 実物を見せる，前もって伝える
- 安心できる居場所づくり
 - 感覚面への配慮
 - 大人や友達との信頼関係
- できることの一步先を狙った援助
 - 発達の最近接領域
 - 「できた」や「楽しい」という成功経験が持てるように

発達の最近接領域 (ヴィゴツキー)



個別の指導計画

全体的な計画

各年齢の指導計画

個別の指導計画

個別・具体的な視点

集団・包括的な
視点

(保育所単位で作成)

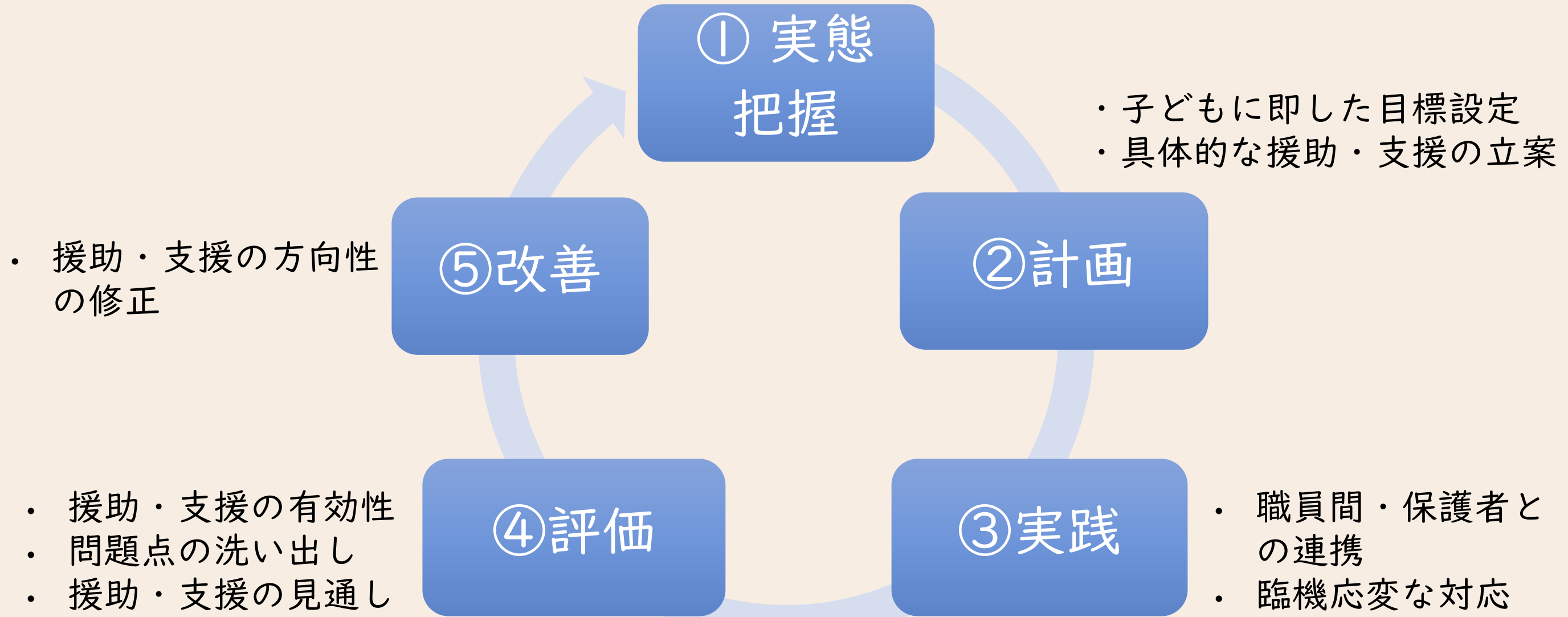
(年齢単位で作成)

(子ども単位で作成)

実践の手順

秋田喜代美・馬場耕一郎監（2018）『保育士等キャリアアップ研修テキスト障害児保育』中央法規を改変

行動観察，保護者・保育者への聞き取り，
保育日誌や記録，関係機関からの情報



実態把握

- 何を見るか，視点や場面を定めて観察・情報収集する
- 集めたデータは記録する
 - エピソード記録，項目ごとの記録などでまとめる
 - 援助の手立てを見出すためにも，具体的・客観的に書く
 - 先入観にとらわれず，広くデータを集める

実態把握のポイント

- 5つの視点（藤原，2015）
 - ① 感覚 五感の偏り，敏感/鈍感
 - ② 記憶
 - ③ コミュニケーション
 - ④ 活動への興味・理解
 - ⑤ 集中力・思考

子どもの 言動・態度

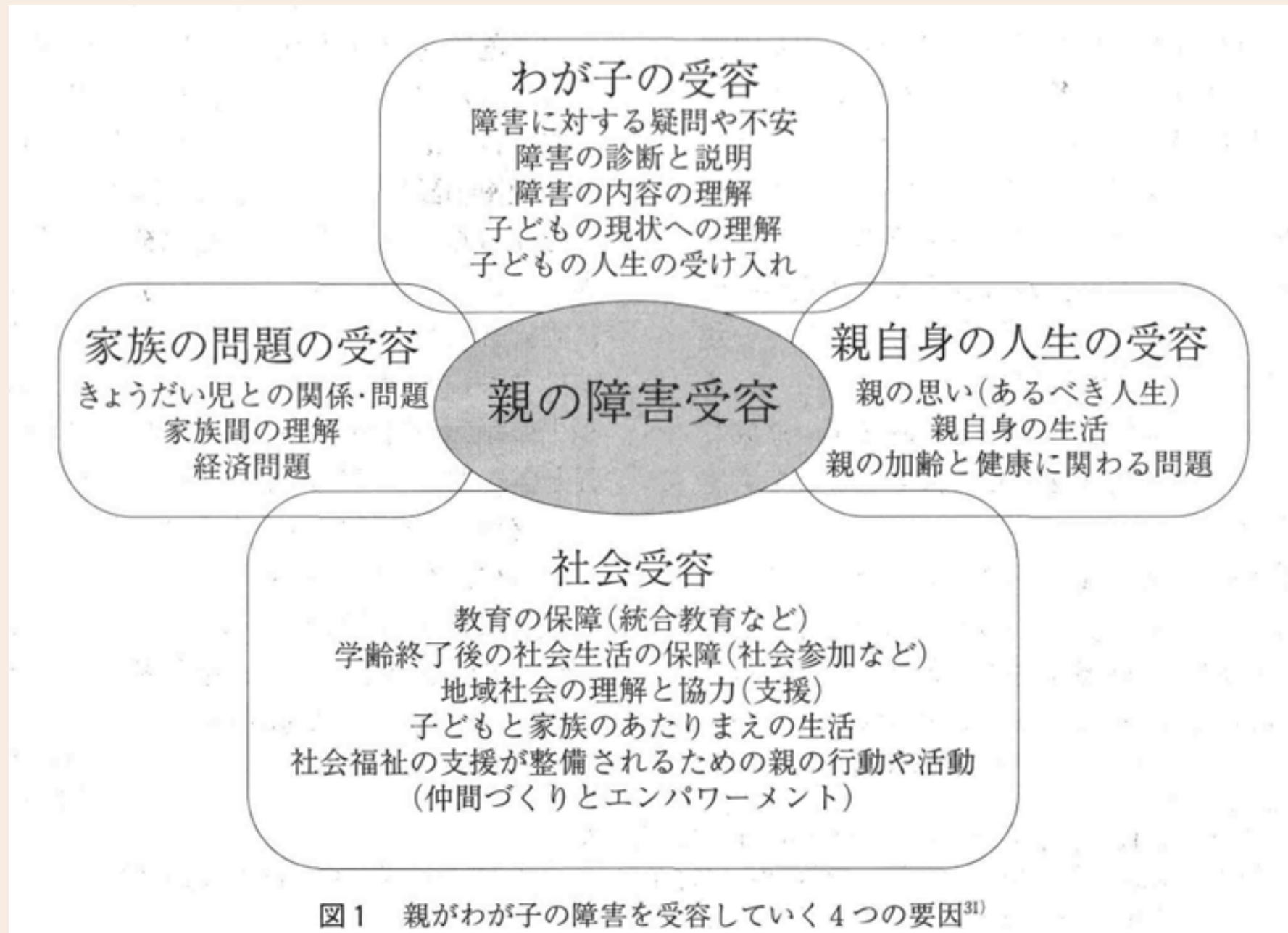
- ・ 認知・感覚, 行動特性
- ・ 過去の経験
- ・ 成育歴・環境
- ・ 思いや願い

環境の構造化

- 4つの視点（藤原，2015）
 - ① 場所
 - ② 時間
 - ③ 活動
 - ④ 視覚的手がかり

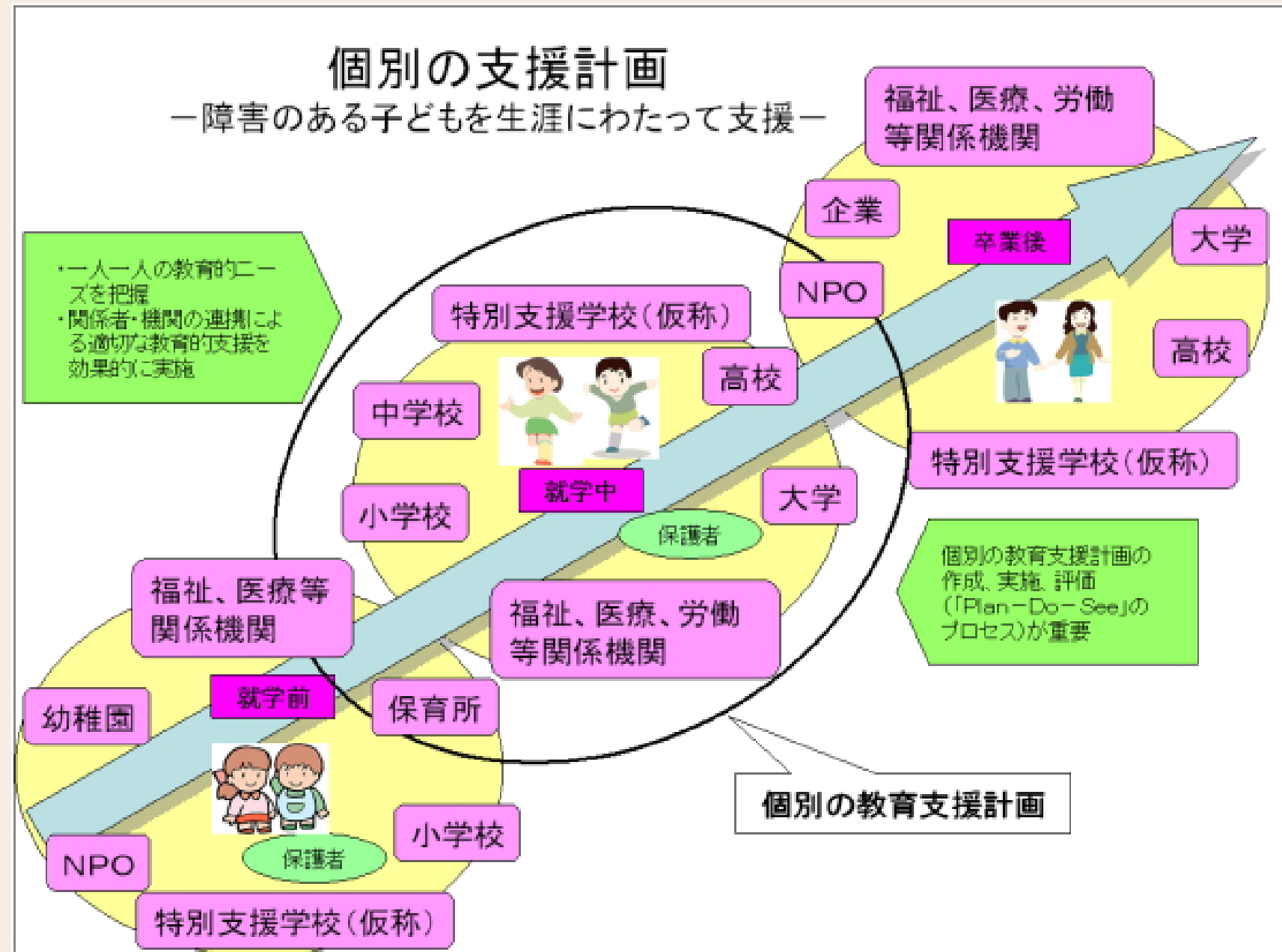
保護者の支援・連携

- 子どもの障害は容易には受容できないもの
- 不安や負担に寄り添い、追いついてしまわないよう支援・連携を行う
- 移行期の支援として「就学支援シート」を作成する



関係機関との連携

- 個別の教育・保育支援計画
 - 長期的な視点を見通した支援計画
 - 家庭や医療機関、保健・福祉機関などが協力して作成



職員間の連携

- 支援目標と方向性の共有
 - 子ども一人ひとりの発達状況や特性，支援の目標や方法について共通理解を図る
- 役割分担の明確化と専門性の活用
 - 互いの専門性を尊重し、情報を交換しながら協力する
- 定期的・具体的な情報共有
 - 話し合いやケース会議、保育記録など

- 3歳児クラスのCくんは、絵本の読み聞かせや歌の時間に全く参加せず、お気に入りのおもちゃで遊んでいます。「みんなと一緒にやろう」と先生が声をかけても、聞こえないかのように。時には、急に部屋を飛び出して、外の遊具へ遊びに行ってしまう。先生は、Cくんのわがままなふるまいをどこまで許してよいか悩んでいます。

この時、あなたならどうしますか？

1	子どもの 行動の 背景	
2	今できる 対応	
3	予防的 対応	

- 3歳児クラスのCくんは、絵本の読み聞かせや歌の時間に全く参加せず、お気に入りのおもちゃで遊んでいます。「みんなと一緒にやろう」と先生が声をかけても、聞こえないかのように。時には、急に部屋を飛び出して、外の遊具へ遊びに行ってしまう。先生は、Cくんのわがままなふるまいをどこまで許してよいか悩んでいます。

この保育者に、どのようにアドバイスをしますか？

第4時間目, 終了です
お疲れさまでした